

AsianRib Presents 未来創造 Diversity Art Festival 2023

プログラム詳細

3月21日（火・祝）

14:00

★ オープニングプログラム

～消滅危機言語を守ろう～ ハイブリッドな与那国の昔話の読み聞かせ

演目：与那国島の昔話の読み聞かせ

内容：与那国語はユネスコ（国際連合教育科学文化機関）より消滅危機言語と指定されている言語です。現在、話せる人は300人程度だと言われています。与那国語の響きはとても美しく、音楽のようにも聞こえてきます。そこで今回はその与那国語と他ジャンルのアートのコラボレーションにトライしてみます。

あなたも与那国語の美しい語感を感じてみませんか？

参加アーティスト：清水寛二（能楽師）、田路紅瑠美（舞踊家）、久保田舞（舞踊家）、他
与那国語朗読：池間龍一、田頭一、三井康大

16:00

★映画『ばちらぬん』上映会

監督・脚本・主演：東盛あいか

所要時間：1時間

【東盛あいかプロフィール】

1997年生まれ。25歳。与那国島出身。京都芸術大学映画学科・俳優コース卒業。卒業制作として初監督出演した『ばちらぬん』が、ぴあフィルムフェスティバル2021のグランプリを獲得し、全国で公開を遂げ、高い評価を得る。与那国語を学びながら発信しており、監督や俳優として活動している。影絵芝居『鯨生~Geio~』では与那国語版を担当。観客からの好評を得る。

3月22日（水）

19:00

★ シニア演劇「或る俳優の物語～三木のり平編・第一部～」 60-60の会

男性版宝塚との異名をもつスタジオライブのオーバー60の俳優が二人で結成した「60の会」によるリレーディング公演

所要時間：90分予定

出演者：藤原啓児 倉本徹

【物語】

ご存知、『三木のり平』は俳優であり、コメディアンであり、はたまた演出家でもあり、ラジオからテレビ、映画に舞台へと実に多岐に渡り活躍した演劇人です。この演劇の大先輩、『三木のり平』はどの様に生まれ、育ち、成長して行ったのか。多感な少年時代を過ごした昭和初期は大衆文化、芸術がもっとも華やいでいた時期。やがて世の中は戦争へ、そして終戦。混乱の戦後へと、、、この激動

の時代を当時の世情を写し乍ら『演劇人・三木のり平』自身の言葉で振り返ります。

【60の会プロフィール】

1960年生まれ我々は『60歳一還暦』という節目の年を突如現れた新型感染症に見舞われ、殆どの同世代が祝って貰えなかったとのニュースを聞き、ならば2020年中に二人で『赤いちゃんちゃんこ』を羽織ろうではないかと立ち上げたユニットです。

事の始まりは、全く恥ずかしく情けない程、個人的で私的な企画意図だったのですが、喪失の人生の始まり二人なりの振り返りと、今後やってくるであろう不測の事態を仕合わせて行く為の意思表示にしたいと思うようになり、自分達の心の中にある、言葉にならない思いを知り、聡明な、敏い、誤りのない老人なるためではなく(なれないし!)、世の中から見たら愚かに見えるような道を、愚直に歩き続ける糸口を見出すことが出来ればと考えております。

<https://theatertainment.jp/japanese-play/66820/>

3月23日(木)・24日(金)

15:00 19:00

★ LGBTを巡る台湾戯曲翻訳リーディング

『赤い風船』、『アメリカ時間』

作：リン・モンホワン 翻訳：山崎理恵子 演出：E-RUN

出演：奈良坂篤 緒方和也 大嶽典子

内容：2019年5月に台湾での同性婚第三組で届け出をした作家・リン・モンホワンの戯曲2作品のリーディング。

「人を愛する権利は平等であり、誰にも支配できない。」ということを中心に、ユーモアも交えながら、親子の情、科学技術の発展への警告(遺伝子問題)を織り込んだ、人としての生きて行くことを切々と伝える作品。

★赤い風船参考文献：<https://courier.jp/news/archives/286912/>

所要時間：

【赤い風船あらすじ】

2049年=同性婚法可決から30年後の台湾。ダディとパパの間に生まれた息子の苦悩。科学技術の発展が人の運命を決めてしまう事への警鐘を鳴らす一作。

【アメリカ時間あらすじ】

アメリカで暮らしている娘は、母親が亡くなったと聞いて、飛行機に飛び乗って台湾に帰る。帰って待っていたのは14日間の隔離。台湾では初七日には亡くなった霊魂が家に帰ると言われている。いないはずの母と娘の対話。何度も口ゲンカを繰り返すうちに、話は本題に入る。「あんた、いつ結婚して、子供を産むの？」同性愛が理解できない母と、同性婚をした娘の人間臭い会話劇。

3月24日(金)

13:00

trial and error 試作リーディング

参加者：小池ジョンノビ、E-RUN 他

読む人：三井康大 大嶽典子 他

所要時間：40分予定

亜細亜の骨の関連メンバーによる試作リーディング。絶賛執筆中。間に合うかの？！乞うご期待!!

3月25日(土)

11:00

★ オリジナルおめんを作ろう！

講師：島田健司

所要時間：1時間30分

定員：10名

対象年齢：幼稚園～大人

横浜で大人気の「おめんワークショップ」が新宿にやってくる！

色んな素材を作り、自分だけのオリジナルおめんを作り、おめんをかぶって世界をのぞくと、いつもとはちがう世界が見えてくるかも！

【島田健司プロフィール】

脚本家。子どもを対象とした芝居の創作やワークショップに携わりながら、横浜市中区にある民間アートセンター若葉町ウオーフのマネージャーとしても活動している。

最近の活動

脚本 若葉町ウオーフ「キャバレー」

人形劇団ひとみざ「Cafe de 人形劇」(構成・脚本)

ワークショップ

若葉町ウオーフ「大岡川はとば倶楽部」(プログラムデザイン)

14:00

★ みんなも孫悟空になれる！？大人も子供の参加できる京劇ワークショップ

講師：石山雄太

所要時間：2時間

定員 15名予定

対象年齢：小学生以上

- 1 京劇のあらまし
- 2 身体基礎訓練(柔軟、歩き方)
- 3 お猿のしぐさを皆で体験
- 4 立ち回り

【石山雄太プロフィール】

東京浅草生まれ。小学生のとき来日公演の京劇「孫悟空」を見て以来京劇に魅了され高校卒業後、中国戯曲学院(中国で京劇を専門に教える唯一の大学)に留学。卒業後は中国トップの京劇団・中国京劇院(現・中国国家京劇院)に所属。京劇界初の外国人の京劇俳優として活躍。京劇普及のため精力的に公演活動が続ける。専門の役柄は立ち回りを交えた幅広い演技力を要求される道化役「武丑(ぶちゅう)」。2017年～立教大学兼任講師。

18:00

★ 舞台『同棲時間』上映会 +アフタートーク

作・リン・モンホワン 演出：ホワン・ユーチン

アフタートーク：劉靈均

内容：同性婚に希望を抱く兄弟のすれ違いと未来への希望。トランスジェンダーの苦悩、そして日本経済に翻弄されて孤独死を遂げた父親。

台湾×日本×演劇×家族×LGBT×歴史×私

対象年齢：15歳以上

所要時間：2時間30分

【同棲時間あらすじ】

台湾のボロアパートの一室。ランニング姿でJポップを口ずさみながら、父の遺品を片付ける弟。スーツ姿の兄が、ブリーフケースとレジ袋を持って現れる。そこにスイカを担いで出現する珍客サルサ。

兄は日本のサラリーマン、日本に妻子あり、台湾に男性の恋人がいる。弟は台湾人、ゲイである。サルサは性転換手術の途中のトランスジェンダー。日本語と中国語の入り混じる小さな部屋の中で、三人三様の生き方が交錯する。

3月26日(日)

11:00

★まねっこから始まる、大人があかちゃんになってみるバイビーシアターワークショップA

講師：弓井茉那

「あかちゃんはどんなせかいを見ているのだろうか？」あかちゃんと一緒にいつもよりじっくり物音を聴いたり、何かを触ったり……。あかちゃんの見ている世界を体験しながら、あかちゃんと一緒に、ちょっと不思議な旅に出してみるWSです♪

所要時間：1時間

定員：10組

対象年齢：1歳7ヶ月～2歳12ヶ月のこどもとその保護者

※月齢は目安です

※おとな単体の観劇も可能です

チケット料金：親子セット(保護者1名+子供1名)1500円

*追加1名につき 1000円

大人一般（枚数限定）1000円（定員：10組）

※対象年齢を超えるお子様のご参加、見学はご遠慮ください。

※ワークショップ中、身体を動かしますので、動きやすい服装をおすすめいたします。

【弓井茉那プロフィール】

BEBERICA theatre company 代表、一般社団法人日本バイビーシアターネットワーク理事、俳優、演劇教育者。京都造形芸術大学（現・京都芸術大学）、座・高円寺劇場創造アカデミーで舞台芸術と演劇教育を学ぶ。俳優として10年ほど活動し、その後ドイツ・デュッセルドルフの児童青少年劇場で演劇教育士として、日本人コミュニティへのアウトリーチ、インリーチプロジェクトに従事。国際児童青少年舞台芸術協会の世界大会のプログラムで次世代の担い手の一人に選ばれる。2016年より、0～2歳の乳幼児とおとなを観劇対象とする演劇作品「バイビーシアター」を制作するBEBERICA theatre company（ベベリカ・シアターカンパニー）を設立。2020年にアジア初となるバイビーシアター実践家のネットワークを目的とした国際イベント「第1回アジアバイビーシアターミーティング」を開催。共訳書に『出産を巡る切り絵・しかけ図鑑』（化学同人）。

13:00

★ 人の体がどのように動くのかを発見しましょう！ダンスワークショップⅠ

講師：田路紅瑠美

所要時間：1時間30分

定員：10名

対象年齢：（幼稚園～小学校4年生まで・保護者）

内容：ストレッチを行ったのち、いくつかのお題に対して体で自由に表現してみよう。

また、ペアになって体を動かしたり動かされたり、人の体がどのように動くのかを発見しましょう。

最後は数名のグループごとに即興的なダンス踊ってもらい、鑑賞し合います。

15:30

★ 体をつかって自由に表現してみよう！ダンスワークショップⅡ

講師：田路紅瑠美

所要時間：1時間30分

定員：10名

対象年齢：（小学校5年生以上どなたでも）

内容：ストレッチを行ったのち、いくつかのお題に対して体で自由に表現してみよう。

また、ペアになって体を動かしたり動かされたり、人の体がどのように動くのかを発見しましょう。

最後は数名のグループごとに即興的なダンス踊ってもらい、鑑賞し合います。

【田路紅瑠美プロフィール】

ダンサー、振付家。

6歳よりダンスを始め、17歳より加藤みや子に師事。

日本大学芸術学部演劇学科卒業後、国内外で自作品を発表し多数の賞を受賞。またミュージシャンや美術家との即興コラボレーション等も積極的に行っている。

ダンサーとしては BABY-Q、珍しいキノコ舞踊団、白神ももこ、服部有吉、しりあがり寿、ピチエクランチェン、水曜日のカンパネラ、平原慎太郎などの作品に出演。

2015年より東野祥子、カジワラトシオ率いるアーティスト集団 ANTIBODIES Collective のメンバーとして活動中。

18:00

★バイビーシアター 記録映像上映会+トークショー
プロデュース・ドラマトウルク・トーク講師：弓井茉那
内容：バイビーシアター 記録映像の上演動画
所要時間：2時間

「バイビーシアター」ってなに？

バイビーシアターは、あかちゃんと大人がともに体験する演劇です。長い間、舞台芸術の観客としてみられていなかったあかちゃんに観劇体験をもたらすため、1980年代からヨーロッパで起こっている舞台芸術です。

あかちゃんは作品の共演者です。目の前の、ともに時間を共有しているあかちゃん達が何を感じ、どんな「はじめてのせかい」と出会っているかを受け取ってみてください。

おそらく、あなたにとっての新しい扉が開くでしょう。

【BEBERICA プロフィール】

「あかちゃんと一緒にせかいをつくる」をテーマに、乳幼児とおとなに向けたパフォーマンスを制作するシアターカンパニー。2016年、弓井茉那を中心に結成。2018年からは京都を拠点に活動する。これまでに、世田谷パブリックシアター、吉祥寺シアター、茨木クリエイティブセンター、いわき芸術文化交流館アリオス、金沢 21 世紀美術館の主催プログラムにて演劇作品の上演やワークショップを実施。2020年城崎国際アートセンターのレジデンスプログラムにて「第1回アジアバイビーシアターミーティング」を主催するなど、バイビーシアターの普及・啓発の活動にも力を入れている。

3月27日(月)

11:00

まねっこから始まる、大人があかちゃんになってみるバイビーシアターワークショップ B
講師：弓井茉那
対象年齢：0歳～1歳6ヶ月のこどもとその保護者
※月齢は目安です
※おとな単体の観劇も可能です
所要時間：1時間

「あかちゃんはどんなせかいを見ているのだろうか？」あかちゃんと一緒にいつもよりじっくり物音を聴いたり、何かを触ったり……。あかちゃんの見ているせかいを体験しながら、あかちゃんと一緒に、ちょっと不思議な旅に出してみるWSです♪

16:00

★フィジカルコメディを創ってみよう！

講師：ヤノミ

所要時間：1時間30分

定員：20名

対象年齢：5才～大人

フィジカルコメディとは、身体表現を主とした喜劇です。セリフ(ことば)を使わずに、日常的な身体の動きやシンプルな生活用品を少しだけ使って、短いコメディを創ってみるワークショップ。ふだんの何気ないシーンにも、笑いの種はいっぱい隠れています。自分の身体で表現すること、小道具を使ってみること、笑いを通して他者とコミュニケーションをとること。のろまやドジや意地悪でさえも、コメディに変換すると「短所・欠点」が「魅力」に逆転！新しい視点でものごとを見てみることで、想像力を使うことで、いろんな発見が生まれます。口下手なひとでも、愉快的コメディアンになれる！

“参加者はとても満たされ、自信につながりました。すっかり、小心ズワールドに引き込まれていきました。子どもは子どもで、大人になりきるし、女性はおじさん役を演じたり、自分とは違う人間を表現したり、終始、大爆笑！” - 所沢こども劇場

【ヤノミプロフィール】

ヤノミ (小心ズ)

無言劇からバイリンガル司会まで国内外にサプライズと幸せを運ぶ天衣無縫のコメディエンヌ。

シルクドソレイユ正式登録アーティスト。

身体の80%はビールでできている。

NHK Eテレ「100秒でわかる名作劇場」声の出演：お話おばさん

7ヶ国27都市にて公演を行い、受賞歴多数。

19:00

★スタンダップコメディ-WS

スタンダップコメディ-WS あなたの弱点さえも笑いのタネ?! ソロコメディを創ってみよう! 自分の魅力をコメディ的に考えて、ことばで表現してみよう! 「私って実はこんなに面白かったのか!」と新しい自分を発見できたら、自分のことをもっと好きになれるかも。

所要時間：1時間30分

定員：15名

対象年齢：10才～大人

3月28日(火) 14:00 19:00

3月29日(水) 11:00 14:00

★影絵芝居『鯨生～Geio～』+ バックステージツアー

*聴覚障害者用字幕付き

作・演出・美術：リン・モンホワン 音楽：レイ・シヨン

翻訳・字幕：山崎理恵子 日本語監修：島田健司

出演：リ・シューチャオ 三井康大

演奏：豪起

所要時間：1時間30分

【鯨生～Geio～について】

人形遣いたちが自分達で作った端正な影絵。生のギターと歌声、そして演者の手で照明を操りながら物語を紡ぎだす豊かな時間。それらが一体となり観客の心に染み入る幻想的な舞台が広がります。終演後はバックステージツアーを行うことができ、影絵の仕組みなどを知ることができます。

「あたしがお腹のなかにいる時に、母さんが夢を見たの。それは竜宮城の夢だった。」
台湾、海底遺跡、くじらの使者、海の神様、果たされなかった約束と悲しい別れ…。

今を生きる私たちにとって大切なことが込められた珠玉の作品。

*3月28日(火) 19:00 聴覚障害者用字幕付きとなります。

★聴覚障害者用字幕、バックステージツアーは手話通訳が入ります。

3月29日(水)

19:00

★映画『ばちらぬん』上映会 + オンラインアフタートーク

監督・脚本・主演：東盛あいか

主催団体プロフィール

主催・企画・運営：一般社団法人亜細亜の骨

2017年1月に出発した演劇ユニット。90年代より中国・北京にて演劇活動を行ってきた山崎理恵子が代表。「演劇でアジアをつなぐ」を理念に、アジア間のアートコラボレーションを促進するプラットフォームの役割を果たしている。2022年4月に一般社団法人となる。これまでは大人の観客層に作品を届けていたが、影絵芝居の創作をきっかけに、幅広い世代に届く作品作りを目指し始める。

近年の主な活動履歴

2022年

- 5月 日本・マレーシア・台湾3か国コラボレーション The tale of Dreams
-夢の物語- @マレーシアクアラルンプール
- 6月 日本・マレーシア・台湾3か国コラボレーション The tale of Dreams
-夢の物語- @日本、台湾、マレーシア配信公演
- 12月 日台コラボレーション影絵芝居『鯨生`Geio`』横浜公演

2021年

- 3月 asianrib plus 配信公演『また今度!』@オンライン公演及びアーカイブ
- 12月 みよんふぁの一人芝居『母 MyMoter』@シアター711

2020年

- 1月 asianrib plus 『屋根に雪降り積む』@杉並区・エリア543
- 2月 『アジア戯曲リーディング』タイ戯曲1本、台湾戯曲2本、韓国戯曲2本
@中野区・ワニズホール
翻訳作品『THE GAME OF POLYAMORY LIFE』リーディング@マレーシア
*主宰・山崎が座談会のゲストとして招請される
- 7月 日本・台湾・香港 国際コラボレーション
超空想科学奇譚 『食用人間〜トリコジカケの中華料理〜』
@ウエストエンドスタジオ

一般社団法人 亜細亜の骨 代表理事
E-RUN / 山崎理恵子



神戸出身。京都産業大学中国語学科在学中より中国語による中国演劇の上演に参加。1991年より2度に渡り中国政府奨学金を獲得。中国・北京中央戯劇学院の演劇演技コースに留学。2000年に同学院修士号取得。1996年より北京にて、日本の現代戯曲を中国語に翻訳し現地の俳優やスタッフとの共同創作にてプロデュース公演を行う。2000年、香港に渡り、演劇制作会社を office30 設立し、日本現代演劇シリーズ公演を展開。自身の翻訳した戯曲を媒体として、香港のアーティストと共に創作活動を行う。同時に、北京・香港・台湾・マカオでの日本の劇団の海外公演ツアー企画・コーディネーターを務める。2009年に帰国後、座・高円寺の劇場創造アカデミー舞台演出コースに入所。そこで受けた講義に感化され、ヨーロッパの劇場にも興味を持ち始める。2013年より、主には舞台監督集団・ザ・スタッフでオペラの舞台監督助手を務めると同時に、数度に渡り、私費でイタリアに遊学。本場のオペラや、教会、彫刻・・・とアジア圏とは全く違った文化を体験する。2016年、台湾・嘉義県の阮劇団と流山児祥のコラボレーション作品『マクベス』を企画。日本側の制作、演出助手、歌唱指導などを務め、見事に公演を成功に導き、同演目は2017年にはシビウ演劇祭に参加。2017年1月、台湾にて劇団・亜戯亜（2018年解散）、東京にて亜細亜の骨を旗揚げ。今までの経験とネットワークを活かし、2020年東京オリンピックに向けて、アジアのアーティスト達とのコラボレーション作品を世界に発信することを目標に活動を開始。

□主な翻訳作品

別役実作『トイレはこちら』/『さらだ殺人事件』/『あーぶくたった にいたった』/
北村想作『寿歌』/鄭義信作『杏仁豆腐のココロ』/ヤオ・ティンファイ香港作『ロン』他、多数

□主な演出作品

林孟寰作 超空想科学奇譚『食用人間～トリコジカケの中華料理』『野良犬之家』/小松山洋一作『夜の一族』/
別役実作『トイレはこちら』/紫式部原作『怪釈・源氏物語』/鴻上尚史作『トランス』/オスカー・ワイルド原作『サロメ 2005version for e-run style』他

□主な海外公演 企画・コーディネーター作品

2002 台湾・東京零距离演劇祭 プログラムディレクター日本より台湾に4団体招聘
2003 KUDAN Project『真夜中の弥次さん喜多さん』中国三都市公演
2004 庭劇団ペニノ『rs. p. p. overeem』台湾公演

共催団体プロフィール

宅故事創作有限公司 Story Nerd Works 2019年設立。
代表：林孟寰（リンモンホワン）

「職業劇作家スピリッツ」と「時代の流れを反映した エレメンツ」にフィーチャーした戯曲を展開させていく。新しい戯曲の創作ブランドをマーケティングにアピールしていく。演劇と映像・アニメなどジャンルを越えての創作スタイルを積極的にサジェスチョンしていく。

Facebook <https://www.facebook.com/StoryNerdWorks/>

【業務内容】 ・ オリジナル戯曲の開発 ・ 知的財産著作物使用許可を受けての翻案 ・ 戯曲のストーリーのアドバイザー ・ 劇作家の育成

【代表作品】 ★ オリジナル作品 ・ 歴史ミュージカル『熱帯天使』及び漫画、映像 ・ 同性愛舞台劇『同棲時間』及び映像 ・ こどもミュージカル『魔神候補生』および漫画、映像 ・ SF 舞台レパートリー『ノアの箱舟三部作』 ★ 複合ジャンルコラボレーション作品 ・ 大型配信ゲーム脚色作品 2.5 次元舞台『自由村 1.5 恋愛の神と反逆者』 チケット開始 15 分で 5000 枚完売。 ・ YouTuber とのコラボレーションのミュージカル『サプライズレストラン』 チケット開始 5 分で 7000 枚で完売。2022 年台湾全国 20 回公演。
<https://www.youtube.com/watch?v=qNRZajDTU8Q> ・ 劇作家の育成 台湾人気漫画翻案舞台作品『息子の店』、『オレオレ詐欺の会社で働いてます』

【60-60の会】

1960 年生まれの我々は『60 歳一還 暦』という節目の年を突如現れた新型感染症に見舞われ、殆どの同世代が祝って貰えなかったとのニュースを聞き、ならば 2020 年中に二人で『赤いちゃんちゃんこ』を羽織ろうではないかと立ち上げたユニットです。

事の始まりは、全く恥ずかしく情けない程、個人的で私的な企画意図だったのですが、喪失の人生の始まり二人なりの振り返りと、今後やってくるであろう不測の事態を仕合わせて行く為の意思表示にしたいと思うようになり、自分達の心の中にある、言葉にならない思いを知り、聡明な、敏い、誤りのない老人なるためではなく(なれないし!)、世の中から見たら愚かに見えるような道を、愚直に歩き続ける糸口を見出すことが出来ればと考えております。

【BEBERICA プロフィール】

「あかちゃんと一緒にせかいをつくる」をテーマに、乳幼児とおとなに向けたパフォーマンスを制作するシアターカンパニー。2016 年、弓井茉那を中心に結成。2018 年からは京都を拠点に活動する。これまでに、世田谷パブリックシアター、吉祥寺シアター、茨木クリエイトセンター、いわき芸術文化交流館アリオス、金沢 21 世紀美術館の主催プログラムにて演劇作品の上演やワークショップを実施。2020 年城崎国際アートセンターのレジデンスプログラムにて「第 1 回アジアベイビーシアターミーティング」を主催するなど、ベイビーシアターの普及・啓発の活動にも力を入れている。

【BEBERICA プロフィール】

「あかちゃんと一緒にせかいをつくる」をテーマに、乳幼児とおとなに向けたパフォーマンスを制作するシアターカンパニー。2016 年、弓井茉那を中心に結成。2018 年からは京都を拠点に活動する。これまでに、世田谷パブリックシアター、吉祥寺シアター、茨木クリエイトセンター、いわき芸術文化交流館アリオス、

金沢 21 世紀美術館の主催プログラムにて演劇作品の上演やワークショップを実施。2020 年城崎国際アートセンターのレジデンスプログラムにて「第 1 回アジアバイビーシアターミーティング」を主催するなど、バイビーシアターの普及・啓発の活動にも力を入れている。



影絵芝居に取り組み、日本と台湾のアーティストたち
東京都江東区、11月29日、鈴木埜子撮影

消滅危機言語

日本最西端の与那国島（沖縄県）と台湾のつながりを描いた影絵芝居「鯨生〜Geio〜」が20日から、横浜市内で公演される。台湾の劇作家、林孟賢さんが、与那国島の沖合にある「海底遺跡」をモチーフに創作した戯曲で、日本での公演は初めて。日本語、台湾語のほか、国連教育科学文化機関（ユネスコ）により「消滅危機言語」として挙げられている与那国島の島ことばでの上演に挑戦する。日本と台湾のアーティストたちが集い、与那国島でも橋古を重ねて臨む意欲作だ。



作品の舞台は、与那国島と島から西約1000kmにある台湾東部・花蓮。台湾は1945年の太平洋戦争の終戦まで日本統治下にあり、花蓮は与那国島との往来が非常に盛んだった。林さんは2011年に花蓮を訪れ、与那国島との歴史的なつながりを知った。花蓮には、日本からの移住者が暮らした移民村があり、日本式建築の家屋が建ち並んでいたが、戦後は老朽化などで次々と取り壊された。林さんは「与那国島との往来が盛んだったのに戦後は引き裂かれてしまった。移民村の家々にはそれぞれ物語があったらうに、それも取り壊しと共に消えてしまった」と残念に思い、花蓮と与那国島の結びつきをテーマにした物語を書き上げた。物語は、与那国島出身の父と

与那国島ことばで結ぶ台湾

日本・台湾語でも 影絵芝居、日本初公演



影絵芝居「鯨生」の場面から—「無独有偶工作室劇団」提供

台湾出身の母の間に生まれ、花蓮で暮らしていた父の鯨生が年老いた後、子どものころの記憶を語り始める。日台の歴史を絡めながら与那国島や「海底遺跡」、クワラの使者、海の神様などが登場する。美しい影絵と生演奏により、幻想的な世界が広がっていく。公演は、演劇ユニット「亜細亜の舟」を主宰する山崎理恵子さんが作品にほれ込んで、林さんに呼びかけて実現した。企画に当たり、山崎さんは与那国島のアーティスト、奥那覇有羽さんと相談し、島の音楽を作品に

横浜で20日から

横浜での公演は▽20日、若葉町ウォーフで台湾語▽23～25日、横浜人形の家・あかいくつ劇場で日本語、「与那国語」——でそれぞれ行う。台湾語と「与那国語」は日本語の字幕付き。詳細は「亜細亜の舟」のホームページ (<http://2018asianrib.stage.orich.jp>)。

23日まで資金募集

また、各地での公演を目指すし、クラウドファンディング (<https://readyfor.jp/projects/ajianohone2022>) で23日まで資金を募っている。

取り入れることを決めた。当初は日本語での上演だけを考えていたが、奥那覇さんから「与那国語や台湾語でも上演したら」と提案された。そこで与那国島出身の俳優・映画監督の東盛あいかさんも加わり、島ことばでの上演も決まった。東盛さんによると、島ことばを流ちょうに話せる人は、島でも高齢者を中心にわずかだといふ。ユネスコは09年、話者が極めて少なく、いま何もしなければ今世紀中に失われる恐れのある「消滅危機言語」の一つとして「与那国語」を挙げた。与那国の島ことばを一つの独立言語と見なしている。東盛さんは、島ことばが失われつつある現状に危機感を抱き、与那国語をテーマにした映画「ぼちらぬん」を製作。自らも島ことばを学びながら、その普及に取り組み。台湾語での公演も初めてとなる。これまで台湾での公演は中国語（北京語）だった。台湾語は日常生活で使われるが、戦後は学校教育は中国語で、若者を中心に台湾語をうまく話せない人が少なくないという。三つのことばで公演するため準備はその分膨れ上がった。中国語の台湾を日本語と台湾語に翻訳、さらに日本語から与那国の島ことばに翻訳した。難しい島ことばへの翻訳は、地元研究者の池田龍一さんが協力。発音についても助言してくれた。11月には台湾から人形使いの周凌騰さん、李書樵さんが来日した。日台の出発地は、東京都江東区内で合宿話をしながら準備を進めた。周さんらに操り人形の作り方や操り方を学び、出演者らが総掛かりで人形や背景などを作り上げた。12月8日には与那国島へ移動し、島の音楽家らと共に橋古を重ねた。17日には島で住民を前に公開リハーサルを開く。東盛さんは「島のアイデンティティである与那国語を今までにならぬ形で語られる。次の世代へつなげられる可能性が広がる」と喜ぶ。林さんは日本公演について「日本人にも日本と台湾の歴史のつながりを知ってもらうことが、新たな未来が築けると思う」と期待を寄せる。日本各地での公演を目指しており、来年には愛媛や香川での開催を予定している。（鈴木埜子）

毎日新聞2022年12月15日夕刊掲載

artscapeレビュー

亜細亜の骨×亜戯亜 共同企画『同棲時間 The Brotherhood』

2018年09月01日号

シェア LINEで送る ツイート



会期：2018/08/02～2018/08/05

シアターモリエール [東京都]

散らかった部屋を片づけるひとりの男。そこへスーツを着た男がやってくる。どうやら二人は兄弟らしい。と、弟が兄に強引にキスをする。弟は関係を続けようと迫り、兄はこんな関係は普通じゃないとそれを拒もうとするが、結局はするすると身を任せてしまう――。

本作は、アジアの演劇交流を目的とする日本の団体「亜細亜の骨」と台湾の劇団「亜戯亜」との共同企画だ。台湾の気鋭の劇作家・林孟寰（リン・モンホワン）が描くのは兄弟間での同性愛。腹違いの二人は互いの存在を知らないままに日本と台湾でそれぞれ過ごし、兄弟と気づかずに関係を持ってしまう。父の葬式で思いがけず顔を合わせた二人は、そこで初めて真実を知る。日本人になろうとしてなりきれず、台湾に戻った兄弟の父と、日本に妻子を持ちながら台湾の男と関係を持ってしまった兄。兄弟の関係に日本と台湾との関係が影を落とす設定が巧い。遺品が片づけられていくにつれて語られる兄弟と父の過去。部屋が片づいたそのとき、二人は歩む道を決めることになる。

LGBTを扱った作品としてもさまざまなことを考えさせられる。たとえば作中には、女性への性転換手術を受けている最中のサルサという人物が登場する。サルサと弟は互いに惹かれ合うが、ゲイの弟はサルサが性転換することを望まない。二人の心はすれ違い、「変わらなくていい」という弟の言葉がサルサを揺さぶる。

この作品が娯楽作品としてよくできていることは極めて重要だ。禁断の愛と三角関係。ベタベタのメロドラマ。サルサと弟との間にある複雑ささえ、メロドラマをメロドラマたらしめるために機能している。しかしだからこそ観客はお勉強としてではなく登場人物たちに興味を持つことができる。固定観念を問い直すことは芸術の重要な役割だが、端から観客に拒絶されてしまうのでは意味がない。LGBTを扱うにせよ国際関係を扱うにせよ、このレベルの娯楽作品が増えることはより多くの人の興味関心を呼ぶことにつながるだろう。

